

## 「蓋井島山ノ神神事」の饗宴

桜井女子短大 富岡典子

【目的】 神饌を通して日本料理の発達の過程を明確にすることを研究の目的とする。本報では、山口県下関市蓋井島に伝承される「蓋井島山ノ神神事」の饗宴から検討したい。

【方法】 2000年11月23日、24日、25日の三日間に斉行された「蓋井島山ノ神神事」について、現地調査を実施した。

【結果】 蓋井島（面積2.35㎡，人口142人，41世帯－2000年10月31日現在）は響灘に浮かぶ孤島であり、「蓋井島山ノ神神事」は6年に一度斉行される周期的な祭祀である。その神事は、神迎え神事，賄い，神送り神事から成り，神饌として神酒，甘酒，潮の花，麦白飯，赤飯，餅，鯛，あわび，さざえ，小えび，昆布，山の芋，大根，果物などが供えられ，直会にて供応される。神送り神事において荷俵に詰めて供えられる75個の餅は朴の木の膳に盛られ，カワヤナギの箸が添えられるが，この供え方は奈良県桜井市竜谷および北山の祭祀（1992年および1996年現地調査）に伝承されるハコヤおよびカイセキと類似のものと考えられ，日本料理における供食形態の原点を考える上で興味ある事例である。